

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270104500		
法人名	有限会社 ゆう		
事業所名	グループホーム GARDEN-HOUSE		
所在地	長崎県長崎市宝栄町4番19号		
自己評価作成日	平成30年1月22日	評価結果市町村受理日	平成30年4月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	平成30年2月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気での共同生活を、個々の能力を活かしながら、日常生活を支えあって笑顔で生活できるよう支援しています。日常生活の中で季節感も感じられるように、季節ごとのお花見や外出を楽しみながら生活 出来るように支援しています。又、レクレーションや各個人の誕生日の誕生会、敬老会やクリスマス会、ホームの中でも様々なイベントを開催し、皆様に笑顔で過ごして頂けるよう努めています。 又、職員の資格取得を積極的に支援しており、スキルアップを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念は「笑顔」である。職員、利用者共に寄り添い、支えあいながら笑顔で生活できるようにとの思いがある。散歩や買い物、ドライブや外食、地域行事への参加等、多彩な外出支援があり、利用者・職員ともに楽しむ姿がある。利用者はホーム内を行き来し、趣味のピアノを演奏したり、クラシックを聴いたり、温泉に出掛けたり、それぞれの自由な暮らし方がみえる。家族との関係性も良く、意見や要望を丁寧に取り取り、運営推進会議では全家族に案内を出し、出席率が高い。管理者は、職員が明るくなければ、利用者の笑顔を引き出す支援は行えないと、職員との垣根を低くし意見や提案を出しやすい関係性を作り、働きやすい職場づくりに努めている。又、地域の自治会役員や消防団に参加し連携を深めている。利用者も職員も無理をしない、自然な暮らしの中に笑顔があるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・笑顔を理念とし、共有し実践できるように取り組んでいる。又、経営理念も毎日朝礼時に職員で唱和し、実践できるように取り組んでいる。	理念「笑顔」と4つの経営理念をホーム内に掲示しており、朝礼時に唱和している。管理者は、職員が明るくなければ、利用者の笑顔を引き出す支援は行えないとの思いから、利用者・職員への声掛けを行っており、職員は楽しく介護を行いながら、たゆまず介護の質の改善に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・地域のイベントなども出来る限り参加し、地域の方との交流が出来るように取り組んでいる。散歩などに出た時には、近隣の方とのあいさつや、話をして交流している。	自治会に加入しており、管理者は自治会役員や消防団員として地域との連携に努めている。利用者と職員は、地域の夏祭りや餅つきに参加したり、散歩に出掛けた際には近隣住民と挨拶を交わしている。また、中学生の職場体験や看護学生の実習、ボランティアの受入れを行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・中学生の実習、ボランティア、看護学校など、様々な受け入れをしており、病気の理解や、コミュニケーションの取り方など支援や理解を深めている。近隣の方とのコミュニケーションも取り、理解頂けるように努めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2カ月に一度開催し、ホームからの報告と、意見などを頂き、サービス向上に活かしている。日常的にご家族の方と話をさせて頂いているので、その時に話して解決できなかったこと等についても、意見や助言を頂き、サービス向上に活かしている	年6回、規程メンバーで開催している。ホームの現状を理解してもらうため、全家族に会議案内を出しており、家族の出席率が高い。会議では利用者の状況や活動報告等を行っており、参加メンバーからの質問にも丁寧に回答している。防災、防犯等のアドバイスをサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・疑問や不明な事がある場合は連絡している。	認定更新の際や補助金申請、運営規程の変更等担当課窓口を訪ねており、疑問や不明な点があれば尋ねたり相談している。また、担当課員が利用者の面会に訪れている。介護相談員の受入れも行っており、利用者の話を聞く機会を設けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・玄関の施錠も夜間帯の防犯時のみ、玄関の鍵は通常使用する鍵のみで別にロックが掛かったりするものは無い。ホーム内でも拘束はなく、ホーム内は別ユニットも自由に行き来出来るように制限もしていない。	外部研修を受けた職員が、職員会議で報告し共有と理解を深めている。4月から3ヶ月毎の内部研修の実施予定である。転倒リスクの高い利用者へのセンサー設置は家族の同意を得ており、解除に向けた検討会議を行っている。一人で教会へ行く利用者もあり、拘束しない支援を基本としている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	・外部研修の参加や、ホーム内での研修も行っている。又、職員どうして注意を払い、虐待防止に努めている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・以前は利用されている方もおり、必要性に応じて、入居の時に申し込みをしたり活用できるように支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約前よりホームの規定なども話し、契約締結の時には十分に説明を行い、疑問点を尋ねている。改定などがあった場合も十分に説明し、理解や納得が得られるまで説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・ご家族が来訪時には、管理者や職員が近況を伝え、意見や要望を尋ねている。その都度変更があった場合は対応している。	苦情の窓口や処理手順は明文化し、契約時に家族へ説明し同意の署名を得ている。また、職員研修を実施し、家族の要望や相談は介護記録へ記載し、職員で共有している。家族とは気軽に話せる関係が構築されており、車椅子の貸し出しなど反映がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・管理者は職員からの意見や提案は常に聞いており、話しやすい状況にある。又、管理者は代表者にも意見を提案し聞き入れて頂いて反映させている。	管理者は職員との垣根を低くし、職員は意見、要望、提案を日頃から伝えている。管理者は業務改善など職員間で話し合った提案を受け入れ、また、資格取得のための研修受講は勤務シフトなど考慮し、働きやすい職場づくりに努めている。加湿器の購入など職員意見の反映がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・個々の状況を把握し、向上心を持って仕事ができるように整備し努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・社内研修も行っているが、外部研修も個々の希望に応じ参加できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・グループホーム連絡協議会に加入しており、勉強会や講習会の参加、他事業所との交流をし、サービス向上させていく取り組みをしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入居時に本人やご家族の方に困っていること等も伺い、ホームでどのような生活がしたいかの聞き取りを行っている。又入居後も早く生活に慣れる様、関係作りを行い、入居後も要望など常にうかがうように取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・入居時より困っている事、不安な事を聞き取りし、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・その時、本人がしたい事や出来る事、出来ない事も見極め、一方的にならない様に必要としている支援を行うように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・本人が出来る事、出来ない事、手伝え出来る事、出来ないけど好きでされる事、等見極め、個々に応じた介護を行い、出来るだけ、出来る事を続けていけるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・ご家族がホームに来られ、まずは病気を理解し、家族からの一方的な支援とならないよう、共に本人を支えていく関係作りをし、ご家族との関係がスムーズになるように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・いつも行っている店へ買い物への支援や、以前より通っていたかかりつけ医への受診などの実施をし、取り巻くなじみの人や場所との関係が途切れない様に支援している。	面会には、家族や親戚、友人などが訪れている。毎月、神父の訪問がある利用者もいる。ピアノを演奏したり、居室でクラシックを聴いたり、自宅へ外泊したり、年賀状をだすなど、職員は、アセスメントや、利用者との会話、家族から本人の生活歴を把握し、馴染みの関係支援に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・関係の把握を行い、関わりながら支えあう様な支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・サービス終了後もご家族からの連絡や、訪問もあり、対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日々の会話で本人の希望などの把握をしている。困難な方は、表情、言葉、行動を察し、今までの生活してきた背景を考え、本人本位で検討している。	職員は、利用者本人に今の思いを書いてもらったり、日々の会話の中で希望や意向を聞いている。表出困難な利用者の場合は、これまでの生活状況から推測し、家族と一緒に検討し把握に努めている。把握した情報は、朝夕の申し送りの際に共有し、介護計画に反映するよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入所前に聞き取りを行っているが、それを基に入居後も本人より話を伺い、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・日々体調や心身状況の変化を確認し、申し送り都度現状に把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・本人の身体的・精神的な面では常に医師にも相談しており、ご家族にも伝え、それぞれに意見や助言も頂いている。職員間でも話し合い、総合的な意見で作成している。	利用開始時、暫定プランで1ヶ月間本人の状況を見て、介護計画を作成している。見直しの際は、本人・家族の意向を聞き、職員がモニタリングを行い、必要な支援について話しあっており、作成後、家族に同意を得ている。退院後や状態に変化がある場合は都度見直している。ただし、計画の実践状況が介護記録から確認できない。	介護計画の実践状況が確認できるような記録方法等工夫・検討が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の記録を残しており、職員間で共有しながら計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・その時々にも生まれるニーズに対しては、柔軟に対応し支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・ホームの食材の買い物や、個人の季節ごとの買い物などに出かけ、季節を感じながら出かける事が出来ように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・入居前のかかりつけ医を受診し、かかりつけ医に相談などしながら関係作りをし、適切な医療が受けられるように支援している。	これまでのかかりつけ医を継続受診しており、利用者の半数以上が同じ主治医である。月2回往診があり、看護師の訪問や皮膚科と歯科の往診もある。職員が受診に付き添っており、変化があった場合には家族に報告し、受診結果は受診記録簿にて職員間で共有している。また、夜間緊急時の対応についても職員は理解している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護等伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・体調不良等の場合は、迅速に掛かりつけ医への連絡を行い、訪問看護や往診を受けられるようにし支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院した場合は、ホームでの状況説明や、入院時に気を付けて頂きたいケアなどの情報を交換し、関係づくりをしている。又、出来る限り入院中は面会へ行き、状況の確認と、早期に退院できるように密に関係づくりをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・重度化した場合の指針を作っており、入居時に説明している。又、入居中に状況の変化があった場合には、ご家族との話し合いを行い今後の方針を決めている。	利用開始時に「重度化した場合における対応に関わる指針」を家族に説明し、同意を得ている。状態の変化があった際、家族、主治医と共に話し合い方針を決めている。ホームでは看取りの事例があり、医療行為を伴わない場合には、家族の協力と体制が整えば、看取りに取組むこととしている。職員は主治医から事例等説明を受けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・応急処置等は、すべての職員が行えている。又、救命救急は、年1回ホームで消防署の方に指導を受けている。ホームで急変があった場合は対応できている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	・火災の訓練は毎月行っている。水害については2階への誘導訓練を行っている。ホーム長が消防団員の為、連携も取れている。	年1回夜間想定で消防署立会いの下、地域関係者も参加し、火災総合訓練を実施している。毎月の消防訓練では、通報、消火、避難誘導等を行い、評価し、次の訓練に活かしている。自然災害については、水害の際は2階に避難することとなっており、非常時持ち出し品の整備も行っているが、現在マニュアルを作成中である。	災害はいつ起こるかわからないため、早急に自然災害に関するマニュアルの整備が求められる。マニュアルの完成と基づく訓練の実施が望まれる。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・職員個々に気を付けて対応している。又、不十分な対応や言葉かけがあった場合は、職員同士で声掛け出来るように気を配っている。ミーティング等でも確認し尊厳とプライバシーが確保できる対応に努めている。	個人情報の取り扱いや写真の掲載は、家族に説明し同意の署名を得ている。また、職員は守秘義務の誓約書を提出している。入浴や排泄介助は、羞恥心に配慮した支援を心掛けている。ドアノックや声掛けなどプライバシーや人格を尊重した支援に努めている。しかし、トイレドアのすりガラスにシルエットが写っている。	安心して排泄が出来るよう、さらにプライバシーや尊厳の観点からも、トイレドアの工夫が望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・出来る限り声掛けし、思いや希望を尋ねるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・その方の生活リズムで過ごすことが出来るように、食事や入浴の時間もずらしたり、その日の希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・出来る方は洋服など選んでいただいている。2カ月に1度美容室の方に来ていただきカットしてもらっているが、カットも希望を尋ねている。朝から整容が出来ない方や不自由な方は整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・食事の準備やかたづけを一緒に行っている。メニューも食べたいものがある時は出来る限りは作っている。食事の形態も個々の状態に合わせて提供している。	食事は利用者の希望を取り入れ、職員が調理し、利用者は野菜の下ごしらえなど、出来る部分を手伝っている。嗜好やアレルギー、嚥下状態に対応している。誕生日は利用者毎に祝い、季節の料理や行事食など季節を感じる工夫がある。回転寿司やファミリーレストランへの外食などもあり、楽しむ支援に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・カロリー計算などは行っていないが、個々の食事量は職員で把握しており、主治医にも相談している。水分制限がある方や、水分摂取が少ない方は確認しながら提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後口腔ケアの声掛け、見守り、介助を行っており、能力に応じたケアを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。又、家族の方の金銭面負担も共有している。	職員は排泄の自立支援を理解し、生活リズムパターンシートに記入し、排泄リズムを把握、共有している。トイレでの座位排泄を基本とし、誘導は利用者のリズムに合わせ行っている。おむつやパッドは極力使用せず、利用者に合った排泄支援を検討している。ホームでは布パンツ使用の利用者が多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロールは、医師に相談しながら行っており、体操や、マッサージをして排便を促している。排便のチェックも行っており申し送り時に確認している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・入浴は基本週3日の日勤帯に行っている。順番などは拒否があった場合や希望があった場合は考慮している。職員も男性・女性の破帽がある場合は配慮し支援している。	入浴は週3、4回を基本としており、利用者の体調や気分、希望に対応している。車椅子の利用者は2人介助で足浴しながらのシャワー浴や湯船へ浸るなど希望に沿った支援がある。職員と利用者が1対1の場合は会話が弾み、歌を歌ったり、利用者が楽しんでいる様子がある。同性介助に対応し、入浴剤やゆず湯など楽しむ工夫がある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・個々の生活リズムに合わせて、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・定時薬の情報の共有はしている。又、臨時役に関しても都度確認し、正しく内服できるように支援している。誤薬防止の為、内服時も2人で確認し内服して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・個々の能力や生活歴を活かし、活動したりレクリエーションをし支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・希望に応じ外出も支援しているが、その日に外出が難しい場合は、話し合ってから翌日などに変更して実施している。又、家族との外出も、車いすの貸し出しなどを行い、外出しやすい様に支援している。	日常的に外気浴や散歩、ドライブ、買い物、外食などさまざまな外出支援があり、車椅子の利用者も一緒に出掛けしている。一人で教会や温泉に行く利用者もいる。その日の希望に沿えないときは日を変えたり家族へ協力を依頼するなど利用者の気持ちを大切にしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・ホームでの預り金はないが、家族との相談で個別に現金を持たれる方もいらっしゃる。買い物などの場合は、立て替えて買い物して頂くので、家族との協議をしながら買い物の金額等も決めており、支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・携帯電話をも足られている方もいます。その他、利用者の要望にて対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居室に表札やトイレなどもわかりやすい様に表示している。月ごとに手作りカレンダーを作って壁に張ったり、季節ごとの花や飾りつけを入居者と共に作成し飾っている。	リビングの採光はよく、季節の花や装飾で季節感を演出している。キッチンからは食事の準備風景や匂いが漂い、利用者の五感を刺激している。ソファに寛いだり、ユニット間を自由に行き来し、思い思いに過ごしている様子が窺える。職員が掃除・換気を行い、次亜塩素酸水で手摺等消毒し、清潔で居心地よく過ごせるよう努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・ダイニング、リビングでそれぞれ快適に過ごせる様に配慮しながら工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入居時に出来るだけ使い慣れたものや家具を入れて頂いている。入居後も写真を飾ったり、自分の作品を飾ったり、ご家族の方も季節で模様替えされたり心地よい空間づくりに努めている。	鏡台や筆筒、家族写真や化粧品等、利用者の使い慣れたものや好みの物の持ち込みは自由である。職員が毎日の掃除の際、換気や結露を取ったり、定期的にシーツ交換を行う等、居心地よく過ごせるよう努めている。ただし、夜間使用しているポータブルトイレの清掃が翌朝であり、日中も居室に置いたままである。	居室の設えへの配慮と本人の尊厳を重視する視点から、日中使用していないポータブルトイレの保管を検討し取組みに期待したい。また、利用者が常に気持ちよく使用できるよう、夜間使用時はその都度の清掃等、配慮が望まれる。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・個別にできること、わかることを把握し、安全に自立した生活が送れるように支援している。		